

### ③参考シナリオについて

「原子力発電への依存度のできる限りの低減」という本委員会の基本的方向性とは異なるものの、国民に幅広く議論の材料を提示する観点から、以下の「参考シナリオ」についても経済影響やCO<sub>2</sub>排出量等の試算を行い、選択肢（1）～（3）と併せて提示することとした。

**参考シナリオ：不確実な状況下での幅広い選択肢を確保するため、意思を持って現状程度の原発の設備容量を維持し、原子力発電比率を2010年度より拡大させる。**

- i) 基本的考え方：a) 国際情勢、経済動向、温暖化対策等が極めて不確実な状況の下で、技術的に可能な範囲で幅広い選択肢を確保する観点から、現状程度の原発の設備容量を維持し、中長期的に原子力発電比率を拡大させる。
- b) 再生可能エネルギーは、立地・系統に係る制約やコスト負担等を考慮しつつ、最大限の導入を目指す。

#### ii) 2030年の電源構成のイメージ

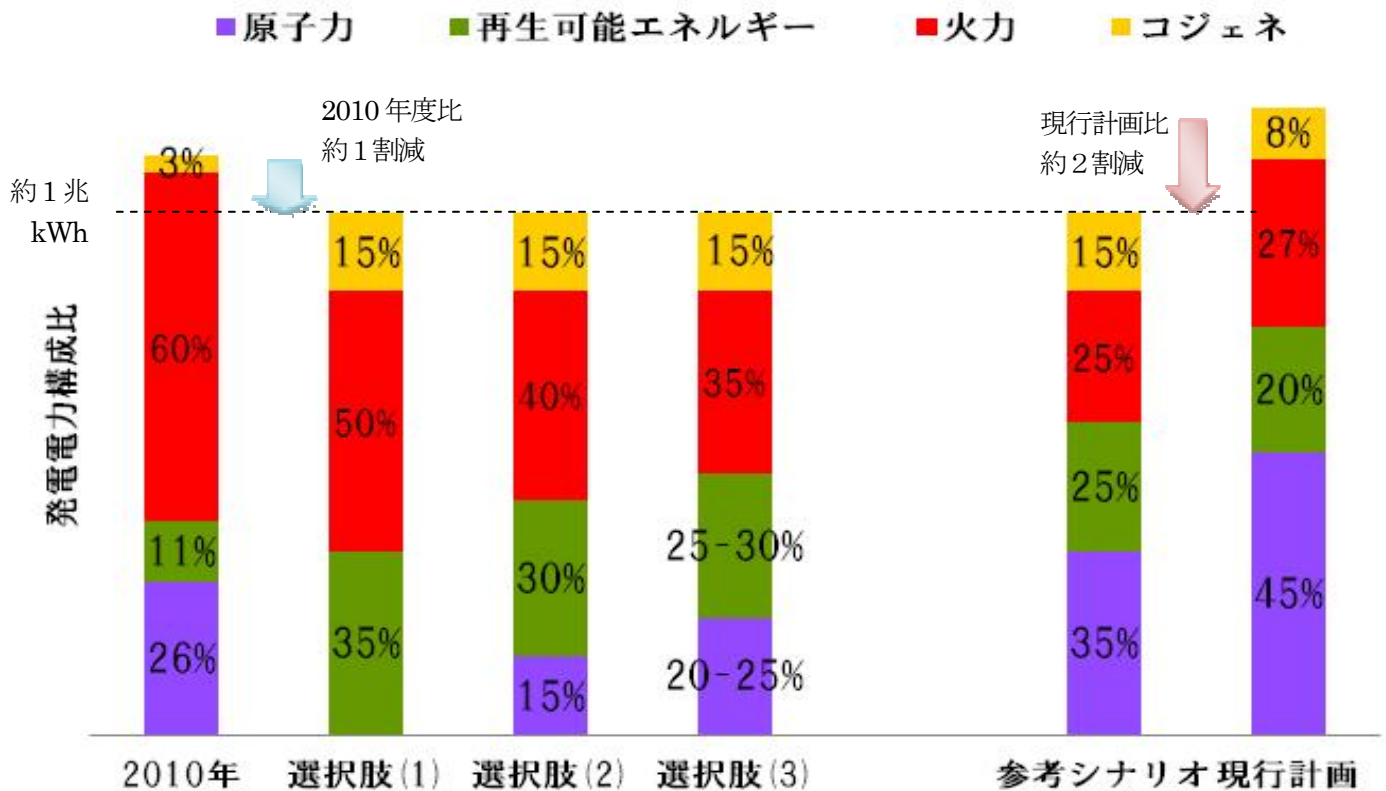
原子力発電	再生可能エネルギー	火力発電	コジェネ	省エネ(節電)	
約 35%	約 25%	約 25%	約 15%	▲約2割 (▲約1割)	▲約 28%

【参考】  
エネルギー  
起源 CO<sub>2</sub>  
排出量  
(1990年比、  
事務局試算)

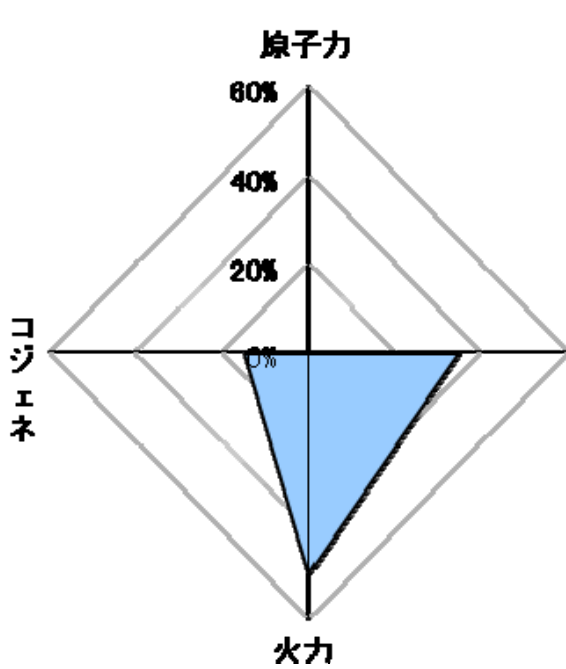
【表①】 選択肢（１）～（３）における 2030 年の電源構成のイメージ（総括表）

	原子力発電	再生可能エネルギー	火力発電	コジェネ	省エネ（節電）	エネルギー起源 CO2 排出量 （電力起源 CO2 排出量） 【1990 年比】
選択肢(1)	0%	約 35%	約 50%	約 15%	【2010 年度比】 省エネ：▲約 2 割 （節電：▲約 1 割） →約 1 兆 kWh	▲16% （+5%）
選択肢(2)	約 15%	約 30%	約 40%	約 15%		▲20% （▲8%）
選択肢(3)	約 20%～ 約 25%	約 25%～ 約 30%	約 35%	約 15%		▲23% （▲15%）
参考シナリオ	約 35%	約 25%	約 25%	約 15%		▲28% （▲33%）
現行計画 （2010 年度策定）	45%	20%	27%	8%	-	▲31% （▲27%）
2010 年度	26%	11%	60%	3%	-	+6% （+25%）

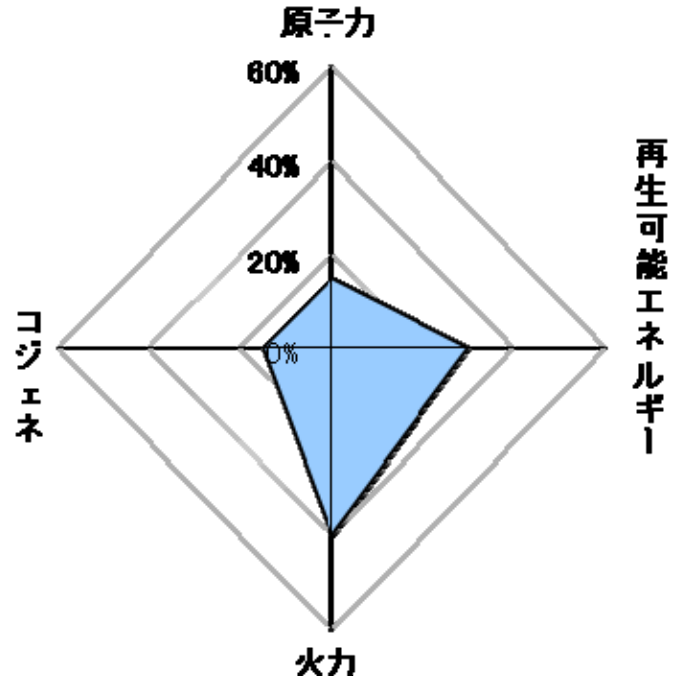
【図③】 選択肢（１）～（３）における 2030 年の電源構成のイメージ（図解）



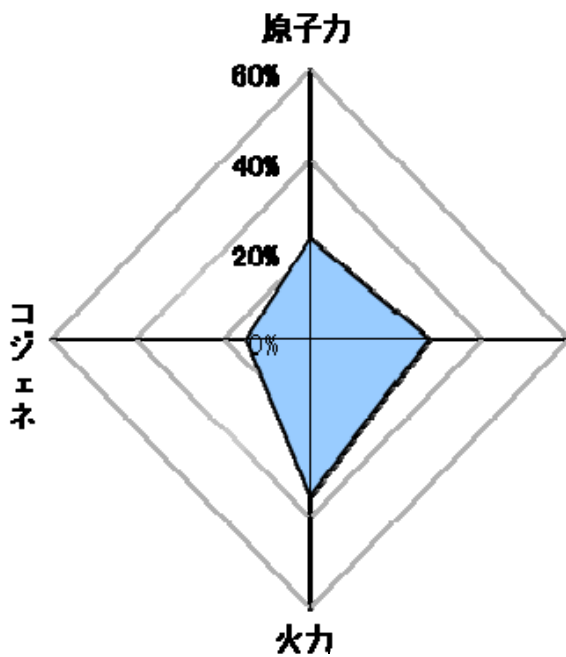
**【図④】 選択肢（１）～（３）の電源構成の比較**  
 (原子力発電への依存度のできる限りの低減と再生可能エネルギーの最大限の加速化が、エネルギーミックスの基本的方向性として確認されている)



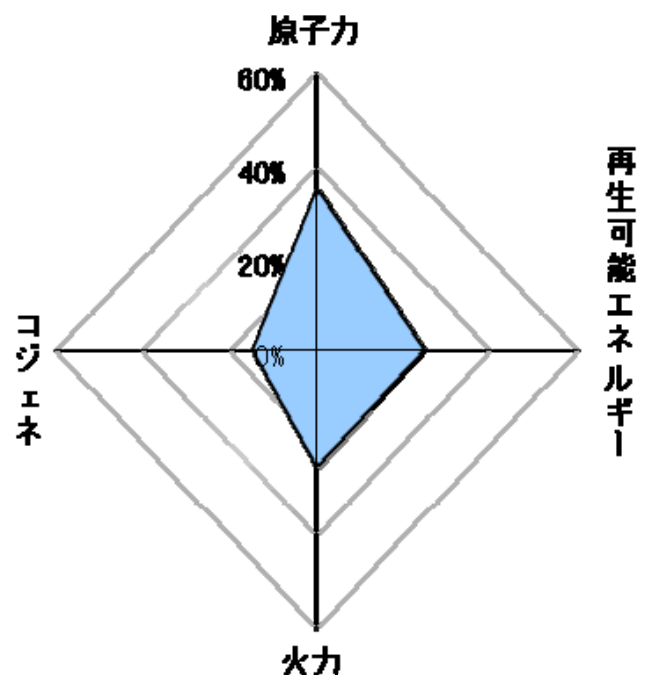
選択肢(1)



選択肢(2)



選択肢(3)



参考シナリオ